

## 「怒る」「叱る」「伝える」は同じ？

子どもを注意する場合、「怒る」と「叱る」は違うものと言われます。激しい感情のまま言葉を発してしまう「怒る」に対して、「叱る」は感情的にならずに冷静な言葉で注意することとされます。一方で、「怒る」も「叱る」も同じような言葉として捉えられることもありますし、「叱ることはよい＝言葉で言うことを聞かせてもよい」と短絡的に考えてしまうこともあります。

そのため、本当に子どもに届けたい思いは何なのか、立ち止まって考えてみることも大切です。子どもが受け止められるよう気持ちを考えた上で、親の思いをうまく伝えることが本当の意味での意思の疎通になります。

「怒る」や「叱る」のではなく、うまく「伝える」ことを心がけてみてはどうでしょうか。

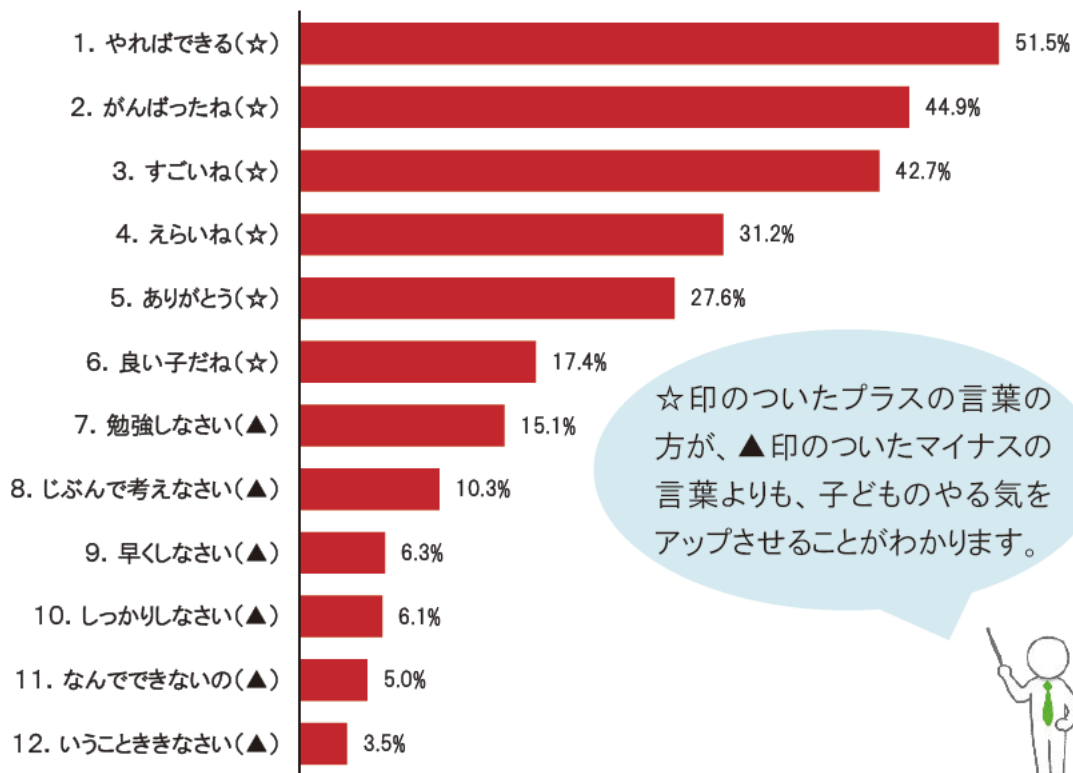
## ＜参考伝えるときのコツ＞

- 子どもの立場に立って、愛情を持って伝える  
→YOUメッセージではなく、I（アイ・愛）メッセージで  
例：「どうして言うことが聞けないの」→「とっても心配したのよ」
- プラス表現（肯定文）を使い、否定語はなるべく使わない  
例：「黙って出て行ったらダメでしょう」→「これからはちゃんと行き先を伝えてから出かけてね」
- 理由をきちんと説明する  
例：「黙っていなくなると、連れ去られたのかもって思ってしまうでしょ」「暗くなると、あなたの姿も見えにくくなって車が気付かないこともあって危険なの」
- 子どもに考えさせながら伝える  
例：「お母さんが突然いなくなったら、あなたは思う？」

参考：親学習プログラム(栃木県教育委員会)



## <言われてやる気が出た言葉ランキング（小3・小5・中2の合計）>



資料：公益財団法人日本教材文化研究財団「家庭教育と親子関係に関する調査研究」平成28年9月  
 ※小学校3年生、小学校5年生、中学校2年生の子どもたちが、自分の親・学校の先生・その他の大人に言われてやる気が出た言葉の割合(3つ以内選択)

## コラム

### ことわざが伝える「叱る」

古くから伝えられてきたことわざには、先人たちの知恵や教訓が詰まっています。現代の子育てにも通じることわざもたくさんありますので、いくつかご紹介します。

#### 子ども叱るな来た道だ 年寄り笑うな行く道だ

→子どものいたずらなどは誰しも身に覚えがあるので叱るべきではないし、自分もいずれ年をとるので老人を笑いものにすべきではないということ。

#### 三つ叱って五つほめ、七つ教えて子は育つ

→子どもは少し叱って多くほめ、たくさん教えて育てるのがよいということ。